

2019年度決算説明会における主な質疑応答

※ 説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、簡潔にまとめております。

【会社全体に関するご質問】

<ポストコロナ社会での福ビル街区建替プロジェクト等について>

Q 福ビル街区建替プロジェクト等の開発プランについて(決算説明会資料P9・P11 参照)

A 福岡は、首都圏と比較し職住近接であり、三密となる空間も少なく、ポストコロナ社会で改めて評価される可能性がある。その中で、福ビル街区建替プロジェクトは、ハード面で換気効率の高い空調設備の活用や、ソフト面で「新しい生活様式」での働き方に対応した多様なオフィスの提供など、ポストコロナ社会に対応した設計が可能だ。福岡空港特定運営事業等の増築施設についても同様である。中長期の成長に必要なものは着実に進めていく。

Q 財務健全性の考え方について(決算説明会資料P6 参照)

A 当面の厳しい状況下では、資金とのバランスを考え、大型開発投資の平準化、安全投資以外の投資の縮減を行う。資金調達については、基本的には長期資金を中心に考えている。

【各事業に関するご質問】

<新型コロナウイルス感染症拡大による各事業の影響について>(決算説明会資料P4～P5 参照)

Q 運輸業について(鉄道事業・バス事業)

A 福岡県の緊急事態宣言解除(5/14)後、鉄道および一般路線バスの利用人員は、直近の平日で前年比5割弱、土日で4割弱と自粛が続いている。商業施設の再開等に伴い利用の回復が期待できるが、年度内は厳しいと考えている。

Q 不動産業について(賃貸事業・住宅事業)

A 賃貸事業では、商業施設での売上歩合収入の減や、賃料の支払猶予などの対応を進めるが、売上が回復すれば、影響は限定的と考えている。住宅事業では、販売活動自粛の影響や、お客様の購入意欲の一時的な低下の可能性はあるが、優良な住宅の提供により中・長期的には回復すると考えている。

Q 国際物流事業について

A 欧米での感染拡大や日本での緊急事態宣言等による経済活動の低迷により、貨物の動きが少なく、4月の取扱高は減少している。

Q 福岡空港特定運営事業等について

A 国際線では、コロナ対策が進んでいる韓国・中国との往来が、ビジネス旅客を中心に徐々に回復してくると思う。

以 上